

<特集「否定、形容詞と連体修飾複文」>

否定、形容詞と連体修飾複文(ドイツ語データ)¹

Negation, Adjectives and Compound Sentences of Adnominal Modification in German

成田 節

Takashi Narita

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿の目的は、特集「否定、形容詞と連体修飾複文」(『語学研究所論集』第23号, 東京外国語大学) における33個のアンケート項目に対するドイツ語のデータを与えることである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘negation, adjectives and adnominal complex sentences’ (*Journal of the Institute of Language Research* 23, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer German data for the question of 33 phrases.

キーワード: ドイツ語, 否定, 比較表現, 連体修飾構造, 補文節

Keywords: German, negation, comparative expression, adnominal modification, compound sentence

諸言語における「否定、形容詞と連体修飾複文」についての風間(2019)²の解説, およびそこに提示されている例文をベースに, ドイツ語での状況を記述し, 若干のコメントをつける。

1) これは私の本ではない。[名詞述語文/コピュラ文の否定]

Das ist nicht mein Buch.
this.NOM is not my.NOM book.NOM³

mein Buch (私の本) という定名詞句の否定には nicht (英 not) を用いる。nicht は否定の対象の直前に置くのが原則である。他方, 「これは本だ。」 Das ist ein Buch. の否定は Das ist kein Buch., 「これはビールだ。」 Das ist Bier. の否定は Das ist kein Bier. というように, 不定名詞句の否定には否定冠詞 kein を用いる。

2) この部屋には椅子がない。[存在文の否定]

In dies-em Zimmer gibt es kein-e Stuhl-e.
in this-DAT room.DAT give-PRS.3SG it.NOM no-PL.ACC chair-PL.ACC



本稿の著作権は著者が保持し, クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 匿名の査読者から多くの有益な指摘を受けたこと。ここに記して感謝します。

² 風間伸次郎「特集「否定、形容詞と連体修飾複文」まえがき」(本号17-37頁)。

³ 名詞の性についての情報は, 関係文など特に重要な場合を除いて省略する。

[es gibt+対格] は存在の有無を表す最も一般的な表現である。存在を否定する表現では否定冠詞 **kein** を用いる。2)の「部屋の椅子」のように、複数の存在が想定しやすいときは、非存在の場合でも名詞を複数形にすることが少なくない。もちろん、名詞を単数形にして **keinen Stuhl** とすることも可能だが、こちらは「一つもない」という含みを持ちうる。

3) この部屋には一つも椅子がない。[全部否定・モノ]

In dies-em Zimmer gibt es kein-en einzig-en Stuhl.
in this-DAT room.DAT give-PRS.3SG it.NOM no-ACC single-ACC chair.ACC

「一つもない」は否定冠詞を使い、名詞を単数形にする **keinen Stuhl** でも表せるが、形容詞 **einzig** 「一つだけの」を添えると明示的になる。この他に否定の **nicht** と不定冠詞 **einen** を用いた **nicht einen einzigen Stuhl** (英 not a single chair) という表現も可能である。⁴

4) その部屋には誰もいない。[全部否定・ヒト]

In dies-em Zimmer ist niemand/keiner.
in this-DAT room.DAT Is nobody.NOM/no one.NOM

「誰も～ない」は **niemand** (英 nobody) 又は **keiner** (英 no one) で表す。es gibt は一般的な存在の有無を表す — 上の 2) は言わば「その部屋は椅子のない部屋だ」の意味 —, 4) は特定の時点にそこに人間がいるかどうかを表すので、es gibt ではなく ist (英 is) が自然な表現となる。

5) その本はこの部屋にない。[所在文の否定]

Das Buch ist nicht in dies-em Zimmer.
the.NOM book.NOM is not in this-DAT room.DAT

6) この犬は大きくない。[形容詞文の否定]

Dies-er Hund ist nicht groß.
this-NOM dog.NOM is not big

7) この犬はあまり大きくない。[形容詞文の部分否定]

Dies-er Hund ist nicht so groß.
this-NOM dog.NOM is not so big

1)でも述べたように、**nicht** は原則として否定の対象の直前に置くので、5)は **nicht in diesem Zimmer** となり、

⁴ **einigen** を除いた **nicht einen Stuhl** はインフォーマントの判断では不自然とのことだが、Duden 9, Richtiges und Gutes Deutsch (2011: 514) には以下の文で「私は1冊の本も買わなかった」という意味を表すという記述も見られる。なお、この例の **ein** は不定冠詞ではなく数詞であり、アクセントが置かれる。

Ich habe nicht ein Buch gekauft.
I have.AUX not one.ACC book.ACC buy.PP

6) は *nicht groß* となる。7) の *so* は「そのぐらい」という意味なので、*nicht so groß* で「それほど大きくはない」という意味を表す。*sehr* 「とても」を使って *Dieser Hund ist nicht sehr groß.* とすると「(大きい)が とても大きいわけではない」という意味になる。

8) この犬はあの犬より大きい。[比較級]

Dies-er Hund hier ist größ-er als der Hund dort.
this-NOM dog.NOM here is big-COMP than the.NOM dog.NOM there

9) この犬がその犬たちの中で一番大きい。[最上級]

Dies-er Hund ist der größ-t-e von den Hund-en
this-NOM dog.NOM is the.NOM big-SUPER-NOM of the.PL.DAT dog-PL.DAT

ドイツ語では形容詞の比較級には接尾辞は *-er* を、最上級には接尾辞は *-st* を付ける。単音節の形容詞は変音するものが多い (*groß > größ-*)。8) の比較の対象「～より」は *als* で表す。*groß* の最上級は末尾の *-ß [s]* と接尾辞の *-s [s]* の重複を避けて *größt* (*×größst*) となる。9) では「この犬が... 一番大きい (犬だ)」と考え、*Hund* 「犬」が男性名詞なので、形容詞の前に男性・単数・主格の定冠詞 *der* を置き、それに応じて最上級の接尾辞の後に語尾 *-e* が付いている。このパターンの他に、対象とする名詞の性・数にかかわらず使える *am größten* という形もある：*Dieser Hund/Diese Katze/Dieses Pferd ist am größten.* 「この犬/猫/馬が一番大きい」(*Katze* 「猫」は女性名詞、*Pferd* 「馬」は中性名詞)。ただし *von den Hunden/Katzen/Pferden* 「その犬/猫/馬たちの中で」を付けると不自然になる。

10) 今日はあの人は来ない。[自動詞文の否定]

Heute komm-t er nicht.
today come.PRS-3SG he.NOM not

11) あの人はその本を持って行かなかった。[他動詞文の否定]

Er hat das Buch nicht mitgenommen.
he.NOM has.AUX the.ACC book.ACC not take with one.PP

これまで *nicht* は否定の対象の直前に置くと説明してきたが、正確に言うならば、「定動詞を文末に置く従属文の語順で考えて、否定の対象の直前に置く」ということになる。10) は「来る(*kommt*)」が否定されるので [... *nicht kommt*] と考え、主文では動詞 *kommt* が第2位 (*heute* の直後) に置かれるので、その結果として *nicht* が文末になる。11) では「持って行った(*mitgenommen hat*)」が否定されるので [... *nicht mitgenommen hat*] となり、主文では定動詞 *hat* のみが第2位に置かれて ... *nicht mitgenommen.* という語順になる。なお *nicht* を *das Buch* の前に置くと「その本を」が否定の焦点となるので、「その本は持って行かなかった (が、他の物を持っていった)」という含意が生じる。

12) 全ての学生が参加しなかった／学生は全員参加しなかった。[数量の全部否定]

a) All-e Student-en haben nicht dar-an teilgenommen.
all-PL.NOM student-PL.NOM have.AUX not it-in participate.PP

b) Kein-e Student-en haben dar-an teilgenommen.
no-PL.NOM student- PL.NOM have.AUX it-in participate.PP

「数量の全部否定」は原則として 12a) のように *alle... nicht* で表せるが,⁵ インフォーマントによると、否定冠詞 *keine* を用いた 12b) の方が自然な表現だとのことである。12a) は理解するための処理時間が多少長くなるようである (インフォーマントは「2 回読まないと理解できない」と言っていた)。⁶ ただし *alle* と *nicht* の組み合わせでも語順によって容認度が変わるようであり、インフォーマントの判断では 12a') のように *daran* 「それに」を文頭に置き、*alle* にアクセントを置くと不自然ではなくなるとのことである。⁷

a') Dar-an haben all-e Student-en nicht teilgenommen.
it-in have.AUX all-PL.NOM student- PL.NOM not participate.PP

また、*alle* を用いても、12c) のように *die Studenten* 「その学生たちは」と定名詞句として提示した上で、*alle* 「みんな」を同格として添える場合も問題なく容認でき、12d) のように複数形の語尾を付けない *all* を *die Studenten* の直前に置く表現も (特に *die Studenten* に関係文などで限定が加わると) 自然な表現として容認できるとのことだった。

c) Die Student-en haben all-e nicht dar-an teilgenommen.
the-PL.NOM student- PL.NOM have.AUX all-PL.NOM not it-in participate.PP

d) All die Student-en haben nicht dar-an teilgenommen.
all the-PL.NOM student- PL.NOM have.AUX not it-in participate.PP

全量化子と否定の結びつきについては、研究の余地が大いにあるようだ。他方、「数量の部分否定」は 13) のように *nicht* を *alle* の前に置くことで問題なく表すことができる。

13) 全ての学生が参加したわけではない。[数量の部分否定]

Nicht all-e Student-en haben dar-an teilgenommen.
not all-PL.NOM student- PL.NOM have.AUX it-in participate.PP

14) (私は買わなかった。しかし、決して) 値段が高いというわけではない。[文の否定]

a) Es ist nicht der Fall, [dass das zu teuer war].
it.NOM is not the.NOM case.NOM that this.NOM too expensive was
それは正しくない [それが高価すぎたこと]。

⁵ Duden 9, *Richtiges und Gutes Deutsch* (2011: 667)には部分否定の *Nicht alle Mitglieder sind verheiratet*. 「全ての会員が既婚というわけではない」に対して、*Alle Mitglieder sind nicht verheiratet*. 「全ての会員が既婚ではない = 既婚の会員はいない」との記述があり、後者の自然さについて特に言及はない。

⁶ 一方、否定冠詞 *keine* を用いた *Alle Studenten haben keine Hausaufgaben gemacht*. 「全ての学生が宿題をしなかった = 宿題をした学生はいない」は同じインフォーマントの語感では問題なく理解できるとのことである。*alle* と *nicht* の組み合わせは「部分否定」(*nicht alle...*) と「全部否定」(*alle... nicht*) の可能性があるが、*alle* と *keine* の組み合わせは「部分否定」の可能性がないので (×*keine alle...*)、瞬時に「全部否定」と理解されるということかもしれない。

⁷ ちなみに 12a) の *daran* を *nicht* の前に移し (それにより *daran* 「それに」を否定の対象からはずし) た *Alle Studenten haben daran nicht teilgenommen*. は容認しがたいとのことだった。

- b) ..., nicht weil das zu teuer war.
not because this.NOM too expensive Was
(私はそれを買わなかったが,) 高価すぎたからではない。

「P でない」という「文の否定」を表す形式としては 14a) の *Es ist nicht der Fall, dass...* (英 *It is not the case that...*) がある。尤もこれは日常的な表現とは言いがたく、「私はそれを買わなかった」を表す *Ich habe es nicht gekauft.* に後続する表現としては極めて不自然である。買わなかった理由が「値段が高いということではない」ということならば 14b) の *nicht weil...* (*not because...*) が可能だが、これだと後に *sondern weil...* (*but because...*) が続くことが含意される。

Duden (2009: 909)によると、「P でない」という「文の否定」はそもそもあまり用いられる表現ではないとした上で、可能性としては従属接続詞の直後に (つまり、否定される内容全体の前に) *nicht* を置く以下のような表現を挙げている。

- Wir woll-en, dass nicht unser-e Ware zurückkomm-t,
we.NOM want-PL that not our-NOM goods.NOM come back-3SG
(sondern unser-e Kunde-n wiederkomm-en, ...)
but our-PL.NOM customers-PL.NOM come back-3PL
私たちが望むのは、商品が返ってくるのではなく、(客が戻ってくることで...)

たしかに「(私たちが望むのは) [商品が返ってくること] ではない」というように [商品が返ってくる] という文内容を否定していると見ることもできるが、これも 14b) と同様に、後に「(そうではなく) …だ」という補足がなければ座りが悪い。単独での「文の否定」は日常的な表現になじみにくいのかもしれない。

15) 走るな! [禁止]

- Lauf nicht! (cf. Ich lauf-e nicht.)
run.2SG.IMP not I.NOM run.1SG not

16) ビールを飲むな! [他動詞文の禁止]

- a) Trink kein Bier! (cf. Ich trink-e kein Bier.)
drink.2SG.IMP no.ACC beer.ACC
ビールを飲むな! (私はビールを飲まない。)
- b) Trink das Bier nicht! (cf. Ich trinke das Bier nicht.)
drink.2SG.IMP the.ACC beer.ACC not
そのビールを飲むな! (私はそのビールを飲まない。)

16) で与えられた例文は「大きな声を出すな!」だが、ドイツ語では *Sei nicht so laut!* (*Don't be so loud.*) あるいは *Sprich nicht so laut!* (*Don't speak so loud.*) で、[他動詞文の禁止] にならないので、a) 「ビールを飲むな!」および b) 「そのビールを飲むな!」に変更した。15), 16) とともに否定の命令文で [禁止] を表しているが、否定の表現に関しては平叙文の場合と特に変わることはない。⁸

⁸ 15) と 16) 及び 18) では親称単数 *du* に対する命令形のみを挙げた。

17) 明日は雨は降らないだろう。[推量の否定]

Morgen wird es nicht regn-en.
tomorrow will.3SG it.NOM not rain-INF

「雨は降らないだろう」では「雨が降る」の否定「雨が降らない」に推量「だろう (wird)」が掛かるので nicht は regnen の前に置かれる。

18) あの人の聞こえないように、小さな声で話してくれ。[目的節の否定]

a) Sprich bitte leise, damit er es nicht hör-en kann.
speak.2SG.IMP please quietly so that he.NOM it.ACC not hear-INF can.PRS.3SG
彼が聞くことができないように、小聲で話せ。

b) Sprich bitte so leise, dass er es nicht hör-en kann.
speak.2SG.IMP please so quietly that he.NOM it.ACC not hear-INF can.PRS.3SG
彼が聞くことができないほどの小聲で話せ。

「～する/しないように…」には目的の従属接続詞 damit を用いることも、[so..., dass ～] という組み合わせを用いることもできる。いずれも否定は従属文の中に納まり、nicht の位置なども主文の場合と特に変わる所はない。18a), 18b) 共に従属文末の定動詞は直説法現在形 kann だが、接続法第 1 式 könne, あるいは接続法第 II 式 könnte となる場合もある。目的の従属文内の定動詞に接続法が用いられる例は、コーパスを見ると 20 世紀を通じて徐々に減少したようであり、インフォーマントの語感でも接続法は「古風 (archaisch)」に感じられるとのことである。

19) 私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。[否定のスコープの調節]

a) Ich habe das nicht deshalb gesagt,
I have.AUX that.ACC not for the reason say.pp
[weil ich dich ärger-n woll-te].
because I you.ACC make angry-INF want-PST
私は [あなたを怒らせようと思ったから] それだから そう言ったのではない。

a') Ich habe das gesagt,
I have.AUX that.ACC say.pp
nicht [weil ich dich ärger-n woll-te].
not because I you.ACC make angry-INF want-PST
私がそう言ったのは [あなたを怒らせようと思ったから] ではない。

19a) では、weil で始まる理由節を先取りする deshalb に nicht が係り、「それだから [=あなたを怒らせようと思ったから] そう言ったのではない」というように、理由節が否定の作用域であることを明示している。この deshalb がないと「あなたを怒らせようと思ったから、それを言わなかった」と解釈する可能性もわずかながら生じる。19a') のように、主節の後、理由節の直前に nicht を置くと、理由節だけが否定の対象となり「私がそう言ったのは、あなたを怒らせようと思ったからではない。」という意味になるが、文が終わった感じにはならず、「そうではなくて…だからだ。」のような訂正理由が続くことが期待される。

b) Ich habe das nicht gesagt, um dich zu ärger-n
I have.AUX that.ACC not say.PP PREP you.ACC to make angry-INF
それは、あなたを怒らせるために言ったのではない。

b') Ich habe das gesagt, nicht um dich zu ärger-n
I have.AUX that.ACC say.PP not PREP you.ACC to make angry-INF
それを言ったのは、あなたを怒らせるためではない。

19b)は目的を表す [um+zu 不定詞句] が主文に後続し、「[あなたを怒らせるために] 言った」が否定の対象となっている。19 b')のように nicht を主節の後、目的を表す zu 不定詞句の直前に置くことも可能で、この場合は 19a')と同様に目的だけが否定の対象となり、「そう言ったのは、あなたを怒らせるためではない」と解釈されるが、やはり「そうではなくて…のためだ」という訂正が続くことが期待される。

20) 私が昨日買った本はどこ (にある) ?⁹ [内の関係の連体修飾節・目的語]

Wo ist das Buch, [das ich gestern gekauft habe].
where is the.N.NOM book.N.NOM REL.N.ACC I yesterday buy.PP have.AUX
その本はどこにある [それを私が昨日買った] ?

21) その本を持って来た人は誰 (か) ? [内の関係の連体修飾節・主語]

a) Wer ist die Person, [die das Buch mitgebracht hat].
who is the.F.NOM person.F.NOM REL.F.NOM the.ACC book.ACC bring.PP has.AUX
その人物は誰 [その人がその本を持って来た] ?

b) Wer ist es [der das Buch mitgebracht hat].
who is it.NOM REL.M.NOM the.ACC book.ACC bring.PP has.AUX
それは誰 [その人 (男性) がその本を持って来た] ?

c) Wer hat das Buch mitgebracht?
who has.AUX the.ACC book.ACC bring.PP
誰がその本を持って来た?

インフォーマントによると、例文の内容を表すもっとも自然な表現は関係文を用いない c) であるとのことだが、a) も b) もドイツ語としては十分可能な表現であり、小説などにも実例が見られる。ただ、日常の話し言葉としては、a) は人工的な印象を与え、b) はかなり不自然で古風でもあるとのことである。

22) この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。 [内の関係の連体修飾節・場所]

a) Das ist der Raum, [in dem wir arbeit-en].
this.NOM is the.M.NOM room.M.NOM in REL.M.DAT we.NOM work-PL
これがその部屋だ [その中で私たちが働く]。

⁹ 20)から 23)および 32)のグロス中の M は男性 (masculine) , F は女性 (feminine) , N は中性 (neuter) を表す。

b) Hier ist der Raum, [in dem wir arbeit-en].
 here is the.M.NOM room.M.NOM In REL.M.DAT we.NOM work-PL
 ここがその部屋だ [その中で私たちが働く]。

c) In dies-em Raum arbeit-en wir.
 in this-DAT room.DAT work-PL we.NOM
 この部屋で私たちは働く。

22)と同様、例文の内容を表すもっとも自然な表現は関係文を用いないc)だということだが、たとえば来客に家の中を見せて回る状況などを考えるとa)もb)も十分に自然な表現として使えるとのことである。

23) 脚が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった。[内の関係の連体修飾節・所有者]

Den Stuhl, bei dem ein Bein abgebrochen war,
 the.M.ACC chair.M.ACC at REL.M.DAT a.NOM leg.NOM break off.PP was.AUX
 habe ich schon weggeschmissen
 have.AUX I already chuck away. PP
 その椅子を [それにおいて1本の脚が折れた] 私は投げ捨てた。

「脚が一本折れた椅子」は「その椅子・それにおいて一つの脚が折れた」と分解し、「それにおいて」は前置詞 bei と関係代名詞 dem (男性・与格) でを表す。

24) ドアを叩いている音が聞こえる。[外の関係の連体修飾節]

a) Ich höre jemand-en an der Tür klopf-en.
 I hear somebody-ACC at the.DAT door.DAT knock-INF
 誰かがドアをノックするのが聞こえる。

b) Ich höre, wie jemand an der Tür klopft.
 I hear as someone-NOM at the.DAT door.DAT knock-PRS.3SG
 誰かがドアをノックする様子が聞こえる。

日本語の「ドアを叩いている音」のように「音」を主名詞とするような連体修飾節はドイツ語では作れない。24a)のように不定詞付き対格構文で「誰かを+ドアをノックする+聞く」とするか、24b)のように wie 「どのように」を従属接続詞として用い「いかに誰かがドアをノックするか+聞く」とするかのとどちらかになる。24a)も24b)も「誰かがドアをノックする」という出来事を同時に知覚していることを表す。

25) あの人が結婚したという噂は本当(か)? [外の関係の連体修飾節]

Ist das Gerücht wahr, dass er geheiratet hat?
 is the.NOM rumour.NOM true that he.NOM marry.PP has.AUX

「...という噂」は das Gerücht, dass ... (the rumour that ...) で表せる。

26) 私はその人が来た時に夕飯を食べていた。[時間節]

Ich habe gerade zu Abend gegessen, als er zu Mir kam.
I have.AUX just to evening eat.PP when he.NOM to me.DAT came

ドイツ語では「～した時」の「時」を名詞としてではなく、従属接続詞 *als* 「～したとき」を用いて表す。なお、*zu Abend essen* で「夕飯を食べる」という意味を表す。

27) 私はその人が待っている所に行った。[場所節]

Ich bin dorthin gekommen, [wo er wart-ete].
I am.AUX there come.PP where.REL he.NOM wait-PST
私はそこへ言った [そこで彼が待っていた]。

「その人が待っている所」に対応するドイツ語では「所」を名詞ではなく、副詞 *dorthin* 「そこへ」で表し、それに *wo* (*where*) を関係詞とする関係文を接続して表現する。

28) 私はその人が走っていったのを見た。[補文節・視覚]

a) Ich habe ihn weglau-en seh-en.
I have.AUX him.ACC run away-INF see-INF=PP
私はその人が走って行くのを見た。

b) Ich habe gesehen, wie er weggelaufen ist.
I have.AUX see.PP as he.NOM run away.PP is.AUX
私はその人が走って行った様子を見た。

28a)は24a)と同じ不定詞付き対格構文で「その人を＋走り去る＋見た」で「その人が走り去るのを見た」という意味を表す。文末の *sehen* は不定詞と同形だが、ここでは過去分詞として用いられており、*habe* と結んで現在完了形となっている。28b)は24b)と同様、*wie* 「どのように」を従属接続詞として用い、「どのようにその人が走り去ったか＋見た」で「私はその人が走り去る様子を見た」という意味になる。

29) 昨日の夜、私は彼らがしゃべっているのを聞いた。[補文節・聴覚]

a) Gestern Nacht habe ich [sie miteinander red-en] hör-en.
yesterday night have.AUX I they.ACC with one another talk-INF hear-INF=PP
昨夜私は [彼らをお互いに＋語る] を聞いた。

b) Gestern Nacht habe ich gehört, [wie sie miteinander rede-ten].
yesterday night have.AUX I hear.PP as they.NOM with one talk-PST.PL
another

昨夜私は聞いた [どのように彼らがお互いに語ったか] を。

「私はかれらがしゃべっているのを聞いた」は24a)と28a)のように不定詞付き対格構文でも、24b)と28b)のように *wie* の従属節を用いても表せる。

30) 私はその人が昨日ここに来たことを知っている。[補文節・知識]

Ich weiß, dass er gestern hier war.
I know that he.NOM yesterday here was
私は知っている [彼が昨日ここにいた (=来た) ことを]。

31) (昨日の午後) 彼は今朝ここに来たと言った。[補文節・間接話法]

a) Gestern Nachmittag hat er gesagt, [dass er gestern
yesterday afternoon has.AUX he.NOM say.PP that he.NOM yesterday
früh hierher gekommen ist].
early here come.PP is.AUX
昨日の午後彼は言った [彼が昨日の朝ここに来たこと]。

b) Gestern Nachmittag hat er gesagt, er sei
yesterday afternoon has.AUX he.NOM say.PP he.NOM be.AUX
früh am Morgen hierher gekommen.
early in-the morning here come.PP
昨日の午後彼は言った [彼が (その日の) 朝早くここに来たこと]。

間接話法にはさまざまなパターンがあるがここでは2例のみ挙げる。31a)は従属接続詞 **dass (that)** を用い、定動詞は直説法にして発言内容を表すパターン、31b)は定動詞第2位の「主文形式」で定動詞は接続法にして発言内容を表すパターンである。31a)では主節と補文節に直示的な **gestern** が出ているが、インフォーマントによれば重複という文体的な点は別にすれば問題はないとのことであった。31b)でも基本的には31a)と同様に **gestern** を使うことも可能ではあるが、むしろ「(その日の) 朝早く」という **früh am Morgen** などの表現の方が自然に感じられるとのことであった。⁹

(昨日の午後) 彼は、「私は今朝ここに来た」と言った。[補文節・直接発話]

c) Gestern Nachmittag hat er gesagt: „Ich bin heute früh
yesterday afternoon has.AUX he.NOM say.PP I am today early
hierher gekommen.“
here come.PP
昨日の午後彼は言った:「私は今朝ここに来た。」

32) 私はリンゴが (あの) 皿の上にあったのを食べた。[内在節・従主・主主]

a) Ich habe den Apfel gegessen, der auf
I have.AUX the.M.ACC apple.M.ACC eat.PP REL.M.NOM on
dem Teller lag.
the.M.DAT dish.M.DAT lie.PST
私はそのりんごを食べた [(それが) その皿の上にあった]

⁹ この段落は査読者の指摘を受けて再調査し、加筆した。

リンゴがさっき皿の上にあったのがいつの間にか無くなっている。

b) Der Apfel, der vorhin auf dem Teller lag.
the.M.NOM apple.M.NOM REL.M.NOM a short time ago on the.DAT dish.DAT lie.PST
ist inzwischen verschwunden.
is.AUX meanwhile disappear.PP
そのりんご [(それが) さっき皿の上にあった] がいつの間にか無くなった。

33) 私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。[内在節・従主・主目]

Ich habe die Katze gefangen,
I have the.F.ACC cat.F.ACC catch.PP
die in-s Haus gelaufen ist.
REL.F.NOM in-the.ACC house.ACC PP < walk is
私は [(それが) 家に入って来た] 猫を捕まえた。

32) の「りんごが皿の上にあったのを食べた」はドイツ語では「皿の上にあつたりんごを食べた」のように、また 33) の「ネコが家に入ってきたのを捕まえた」は「家に入ってきたネコを捕まえた」というように、名詞 + 関係文に組み替えて表現する。¹⁰

執筆者連絡先: narita@tufs.ac.jp

原稿受理: 2019 年 5 月 7 日

¹⁰ 査読者から、33)のような表現だと、日本語で意図されている「猫が家に入ってきた瞬間とそれを捕まえた瞬間が一致していること」が必ずしも再現されないので、Ich habe eine Katze gefangen, **als** sie ins Haus gelaufen ist. 「私は (猫が) 家に入ったときに猫を捕まえた」や **Kaum** ist eine Katze ins Haus gelaufen, **als** ich sie gefangen habe. 「猫が家に入るやいなや、私はそれを捕まえた」のような時間文を使った表現の検討も必要との指摘を受けたが、これらについては別の機会に検討したい。